あし
ハイキングクラブ

ちんぐるま

第３２７号
2017年１月１２日発行

先月の山行

☆　１２月１１日（日）飯降山　　山行報告参照
☆　　１８日（日）寺尾観音　　山行報告参照
海岸ハイキング

１月の予定

☆　２日（月）荒島岳
★　１２日（木）例会
☆　１５日（日）
　　ＣＬ

☆　２９日（日）
　　ＣＬ

２月の予定

★　９日（木）例会
☆　１２日（日）
　　ＣＬ
☆　２６日（日）
　　ＣＬ

冬季は積雪を考慮して計画を致します。

遭難対策基金１０００円年会費６０００円
会計（伴藤幸枝）までお願い致します。
090-9442-7026

山行申込み方法

・山行申込みの基本は例会時です。
（都合により例会に出席できないが、山行込みをしたい場合は、例会当日２０時半頃、宮本の携帯０９０－８２６０－８１０８へ連絡してください。）
・例会時に未定であったり、山行申込済で都合によりいけなくなった場合は、前々日夜までに山行リーダーへ直接連絡してください。

山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

飯降山（884．3m）

日　時２０１６．１２．１１（日）

１２月１１日（日）　７：００分　建設技術研究センター集合、東の空は雲はあるが朝焼けで赤く染まり、西の空は青空が見えている。　２台に分乗し、大野に向けて出発する、途中道路脇の温度計が１度を示し、かなり寒い朝である。車を飯降公民館の駐車場に止め、８：０３分登山開始、登山道は落葉で覆われ、滑りやすい粘土質の道を慎重に登って行く。過ぎに山頂到着し、早い時間ではあるが食事の準備に取り掛かる、本日のメニューはカレーうどんである、毎回毎回、伴藤シェフには感謝感謝であります。寒い山頂で食べるカレーうどんは味もさることながら最高の「星３つ」で１１名で鍋２つを食べきりました（大変満足しました）。山頂から大野盆地は見えるが周辺の山々は見えない、飯降山という呼び名は泰澄大師がこの山に上がったところ、空から飯が降ってきたという説や、３人の尼さんがこの山で修行に励んでいたら空から飯が降るようになった、という言い伝えがあるようです。　山頂は時々雪が舞いかなり寒い、11時過ぎに下山を開始し、９合目までは雪が薄く積もっているので、慎重に降りていく、後は落葉で道の状況がわからないので滑らないよう細心の注意をし下る。２合目の戌山城址分岐で城址方面へ向かい、「雲海の大野城」撮影のビューポイントで写真を撮り、１３時頃国道１５８号砂山トンネル付近に下山し、駐車場へ戻る。

下山後、帰り支度をし、ＶＩＯで土産等を買い、みらくる亭で温泉に入りサッパリして精算をし、１５時過ぎ雪研に戻る。　今日は雨に遭うと思っていましたが天候に恵まれ、皆さん怪我もなく　無事に登山出来たことに万歳！

加賀市大聖寺・加佐岬～黒崎海岸、寺尾観音山（228m）
日時　2016年12月18日（日）

私にとって今年最初で最後の山歩き参加。久しぶりの参加にウキウキ気分だったが、雪研付近でうろうろしてしまい、集合時間７時ジャストの到着となってしまった。片川さんの車に便乗させていただき、他の方々は、小泉さん、畑中さんの車に同乗しての出発となる。

途中、金津インター付近のコンビニで立田さん、伴藤さんが合流して全員集合。一路目指すは加佐ノ岬、加賀インター付近で順路を間違ったが、修正して加佐ノ岬に向かう。道中、懐かしい片野の鴨池の横を通過。ここで、鴨池付近で行っている伝統的な鴨猟（逆網猟）についてお話をする。８時３０分頃に加佐ノ岬駐車場に到着。ここから国有林に入るので、元国有林マンとして、加賀海岸の国有林概要を少し説明をさせていただき、国有林の中に入る。

加賀海岸の国有林へは、金沢営林署（現石川森林管理署）から大阪へ転勤して以来１８年ぶりになる。「加佐ノ岬付近のクロマツの林は、自慢の林だったのに、今は見る影もないな！」とマツクイムシ被害の拡大により松林の体をなしていない状況に情けない思いが心をよぎる。（みなさんには、マツクイムシ被害のメカニズムについてお話をする）

全員が加佐ノ岬燈台を過ぎ、岬の先端へと進む。途中、ヘキサチューブ（京大赤井教授発案）を利用したクロマツの植栽地を見つけ、全滅の状況を確認し、「名勝地なのに、なぜ早く片付けないのかな？」と思い、石川署の知り合いに電話をしてしまう。（職業病かな？）

ここで、日本海をバックに全員で記念撮影。まだ、空はどん曇りだけど、雨は降らず、まずまずのハイキング日和となる。加佐ノ岬から浜山岬、黒崎海岸に向かう途中には、赤い実のなるビナンカヅラ、サルトリイバラのつる植物、ゴンゼツの赤黒い実、マサキやトベラの黄色い実がはじけていて目に付く。

黒崎海岸から掘割を抜け、黒崎町の町並みの中を通って加佐ノ岬に引き返す。加佐ノ岬には、１１時過ぎに到着。早速、昼食とする。伴藤さんがいつものように「今日は、豚汁です。」とのこと、ガスバーナー３本準備し、付近にあったトタンの切れ端で囲い、風よけを作る。「この人たちは、どのような状況に置かれても、付近にあるものを工夫して生きていける」と頼もしく思う。

調理の間に加藤さんがオカリナでエーデルワイス、ふるさとなど数曲を演奏。心穏やかにオカリナの響きを楽しむ。

手弁当を広げ、豚汁もおかわりし、「体が温もったな！うまかったな！寒い日には最高のご馳走だ。いつも有難う。」と感謝する。そのうちに、空模様は晴れ間が広がり、絶好のコンディションとなる。

１２時過ぎに加佐岬を出発する。大聖寺の街中を通過し、国道８号を横切り、寺尾観音山を目指す。寺尾観音山の駐車場に１２時に到着。１２時１０分から登山開始。入口付近の杉林を過ぎ、落ち葉が敷き詰められた登山道を進む。この付近のスギの木は、熊の皮剥ぎ被害は見当たらない。しかし、広葉樹（コナラ、ホオノキ、ヤマモミジ、ソヨゴなど）に混じってアカマツが自生しているが、ほとんどの木が枯れている。

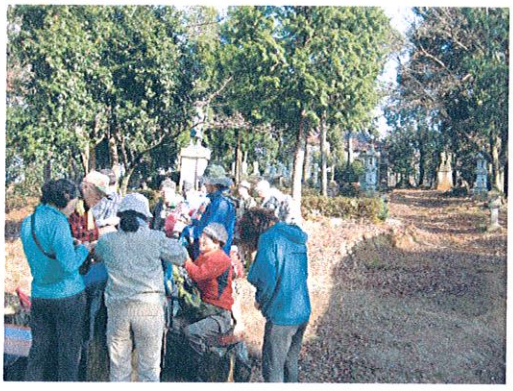
１２時３０分に寺尾観音を通り、緩やかな尾根を進み、４０分に標高２２８ｍの山頂に立つ。途中、ミヤマシキミやソヨゴの赤い実を見つける。

ミヤマシキミの実

山頂には国土地理院の三角点がある。伴藤さんのリュックの下になった三角点を撮影。（これもおもしろいかな？）

山頂は林の中で、見晴らしも悪いので、すぐ下山する。観音堂まで戻り、ここで、付近にアカマツがあったので、「アカマツは新芽が赤く、葉は触ってもいたくないです。クロマツは新芽は白っぽく、葉は固く尖っていて痛いです。」とお話しすると「なるほど、触っても痛くないわ！」との声。特徴を実感してもらえたようでした。

更に下り、大きなモミノキの横にある木製のテーブルでコーヒータイムとする。ここからは、遠く日本海が薄っすらと望め、しばし休憩して、１３時５分に下山を再開する。１３時２５分には全員下山完了。



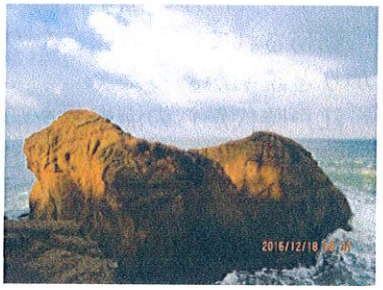
寺尾観音御堂前でのコーヒータイム

「次は温泉だ！何処へ行くのかな？」と思っていると、まず、近くにある大聖寺温泉へ。入浴困難だったので、次は加賀三谷温泉へ。ここは、3時３０分からしか入浴できない。そこで、あわら市に戻り、北潟湖畔荘で温泉に入ることになる。

加賀インター脇を通って、吉崎方面に向かい、伊部さんの道案内で目的地には１４時２０分に到着。早速、入浴料４００円を払って受付を済ませ、展望浴場で風力発電の風車を眺めながらゆったりと湯につかる。やはり、山歩き後の風呂は気持ちがいい。

１５時３０分には湖畔荘を出て、車の中では楽しい会話が続く。雪研に１６時３０分に到着。無事解散となる。運転手のみなさん有難うございました。

ビナンカヅラの実（ビナンカズラ）



表面だけではわからない事。ふたつ

１２月１８日の石川県加佐岬から黒崎までの海岸（木曽街道）の散歩、皆さんはいかがでしたか？

当日、林野庁の職員として永年働いてこられたアシ会員の石塚さんからご説明を頂いた。その時の資料を自宅に帰ってあらためて熟読した。

私はこの日まであの海岸林は昔からあると思っていた。ところが江戸時代からの長い取り組みで飛砂から農地を守る林が作られた。明治を経て今日に至るまで沢山の試行錯誤と工夫をこらし、人手とお金をかけて現在の植生があるのです。このことが分かっただけでも石塚さんに感謝したいと思います美しい海岸林景観もまた人の歴史の愛物だったのです。

私達はついつい表面だけをみて何かわかったつもりになりがちです。これからもそんな意味で、楽しい山行、ウオークのある会でありたいと思っている。

さて先日たまたまスーパーの店内で無料検診を受けました。初めて骨密度測定をしました。片足のカカトを器機にはめハイ終わり。結果は「バツグンです。」と言われた。

ｓｏｓ値１５３９ｍ／ｓ　２０歳男子の平均が１５３８ｍ／ｓですから少し上回り登山を続けたおかげでしょう。ほんの冗談で首から下は１８歳ですと口にしていましたが骨密度に関する限り本当になってしまいました。

これも私とゆうヒトの表面だけみていてもわからないと思いあえて書き記しました。

12/18　加賀海岸ハイキングで
植生を活かしての海岸・田畑の保全　石塚さんらの仕事と私

宮本重信

12月18日大聖寺街中散策という私の提案が荒川さんによって海岸の国定公園の散策になり，更に林野庁に勤務されていた石塚さんの古巣ということで，しっかりと説明があった．

江戸時代からの海岸林を活かして保全された海岸と背後地が明治維新で大聖寺藩が無くなって荒廃した．その後は，国が保全しているとのこと．クロマツなどの植物を工夫を施して育てて，安定した砂丘にしていることが分かりました．石塚さんらは，自然の生態系，植生を活かして保全を行ってきたようで，そのことへの自負を感じました．

私の多少専門だった土木の分野では，治山治水にはコンクリートのダムという方法が多くて，砂防ダムも2カ所設計から施工までやったことがあります．そうしたことの代替がないかと一時調べたことがあります．そこではみどりのダムの限界を感じました．が，少なくてもダムよりは，越流しても4時間は経過すれば水位が下がるので，その4時間破堤しない堤防ならば足羽川ではダムの1500億円の50分の1の費用で済む．丁度，私の職場の前が破堤した箇所で，あの豪雨時に，職場に駆けつけて膝下まで泥水が流れ来る中で，床上のパソコンを机の上に上げて回った．その時に，今は多分越流しているだけだろう，これが破堤したら，濁流で死ぬかもしれない．避難命令区域に立ち入って命を落としてまずいと直ぐに撤退しました．そうしたことがあって，越流しても数時間大丈夫な河川をとの提案だったのです．そのような提案は雑誌「世界」で，大熊孝新潟大学教授が書いていました．また，佐藤正雄県議が国土問題研究会の大学の先生らに，豪雨の検討を依頼した報告にも，その提案がありました．

足羽川での災害では壊れなかった川の表をコンクリートで覆って土をかぶせる工事がされた．一方で，越流で水が流れてえぐられた川の裏(民地側)は何も補強しない．これはおかしいではないかと研究所の同居人となった足羽川激甚災害事務所のみんなに，議論をふっかけたのです．みなさん納得されました．そして県庁の河川課はそれを足羽川激甚災害復旧事業でやらせて欲しいと国土交通省にお願いしたのです．それは，逆鱗に触れ，叱られました．理由は分かりません．長い堤防はどこが破損するから分からないなどを理由に公式に一般的には挙げていますが，足羽川では実際に越流までして流れても1時間半も破堤しなかった事実があるから，これの理由は足羽川では当てはまりません．近畿管内で唯一となったダムが無くなったりすると巨大利権が無くなるからでしょうか．一度，大きな利権集団なりができると，その尊重が利権政治家の下での行政では当然となるのでしょうか．巨大利権原発への政党や関連企業や労働組合の対応をみるとそんなことも思います．

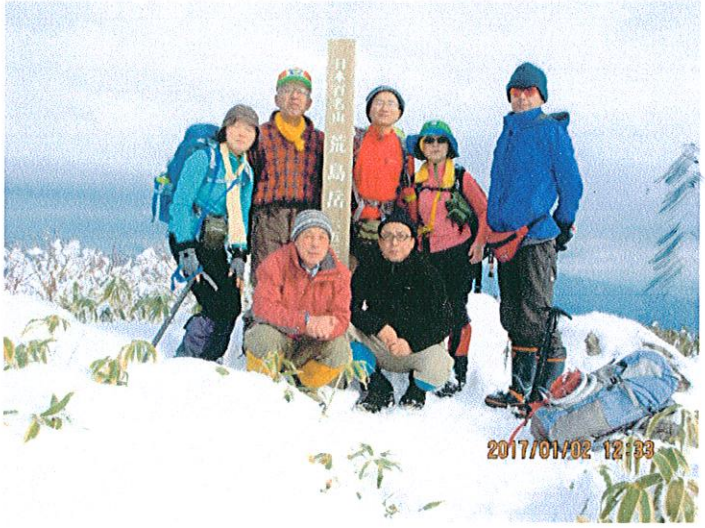
砂丘を見ながら，日本海では，河川から運ばれる砂は，その南側に貯まる．福井臨界の港は，砂の貯まる砂丘に港を作ったから，砂で港は埋まり，膨大な費用で浚渫しないと行けない．一方で，敦賀や小浜の港は，自然を活かした優れた港で，昔の人の方が知恵や根本をみる力があった？．巨大であったり日々の力の，あるいは多様な自然の力を上手く活かせば，環境の保全と両立しながら生活の向上が図れる．山や自然に接することがないと，そうした根本を忘れる？．私は高校時代から山に登って自然の雄大さ，あの山を作る自然を感じていたから，こんな考えになったのだろうか．巨大で力尽くの原発やダムに，根本的なおかしさを感じながら，ハイキングを楽しみました．こんなハイキングも高齢化と多様化を考えると良いなーと思いました．

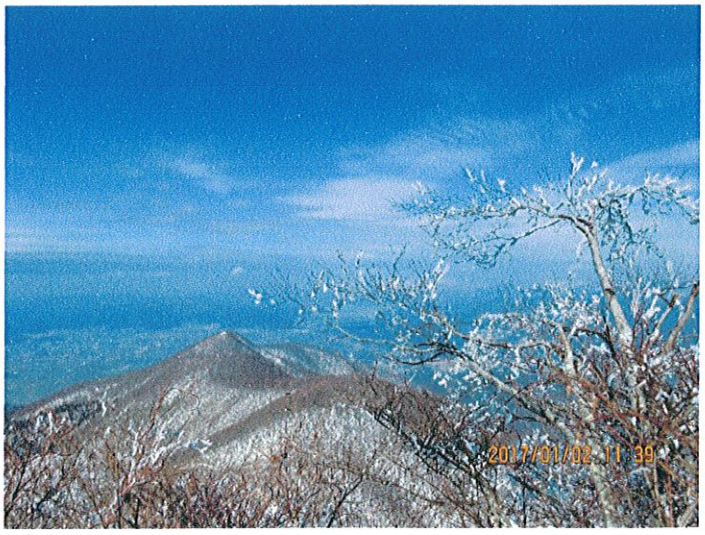
石塚さんは，現場が好きで，年齢と共に行政的な仕事になって残念だったようです．私は，逆で，より直接地域のために行政的な仕事がしたかった．それで県庁に入った．最初の3年目，本庁で担当した臨海工業地帯建設の下水道数百億円は停止すべきだと意見書を私は課長に出して，これを課長は実現させたのです．その後現場に出されました．今の政治や行政の元では，憲法の思想信条の自由は十分貫徹されていなくて，やがて研究所でなかったあの職場に異動になった．雪対策を掲げた栗田知事に行政マンとして取り組んだのが融雪の研究開発でした．地下水を歩道無散水で使い，冷えた水を車道に散水して融雪のシステム，積雪センサ，南条特産での高熱伝導珪石骨材での融雪パネルの3つは，その後福井，金沢，富山，福島，兵庫の雪国に広がりました．この3つで私は知事功労賞を受賞しました．10年後，その実績を背景に職場合意を得て職場を研究所に変えたのです．

石塚さん，荒川さん，今回はありがとうございました．また，公園でのおいしい温かいもの，伴藤さん，いつもありがとうございます．

荒島岳　１５２３ｍ

日　時 2017/01/02



朝７時半集合発，昨年同様，暖冬で大野市内は積雪なし．大野へのトンネルを過ぎると，天空の大野城が正面に見える．ガラガラの道の勝原スキー場跡まで，登山道には積雪なし．その後の登山道は，踏まれた雪道となって，11 時過ぎにシャクナゲ平に到着．簡易アイゼンを靴に取り付ける．風はなくても，背中の汗で，寒くなる．白山と別山が，とりわけ別山は日が差して映える．左には経ヶ岳，赤兎，大長山が控える．何人かはカメラのシャッターを切る．積雪は 30cm ほど．頂上まで壁の階段に，キックステップやピッケルのブレードで僅かな足場を作り，ブナの樹氷の中を登る．時折，日射しで溶けた霧氷が落下する．12 時半には頂上．昨年よりも積雪がなくて，チシマササが登山道の両側を覆う．真名川，九頭竜川からの土砂が，勝山市との境界で絞られて貯まった大野の盆地，名水の大野がよく分かる．盆地には雪が皆無で白銀でなくて風情はない．

下りは速い．私の２本爪の簡易なアイゼンの隙間は，雪団子になって，アイゼンは効かないどころか，不安定な足取りとなる．時折はピッケルで，靴をたたいて，雪団子を落とす．かかとからやや固まった雪を踏み込んで滑らないようにして下りる．あるいは，新雪に踏み入れて歩く．13 時 15 分頃にはシャクナゲ平に着いて，３台の火気でぜんざいとお餅．15 時過ぎに，駐車場に着いて，靴とスパッツの泥を水で流した．